

常任委員会の動き

いじめ防止対策 学校生活についてのアンケート調査を実施

子ども文教

子ども文教常任委員会は、十二月十日に開催され、陳情一件を審査した。その結果、陳情は趣旨不承と決定した。また、①賃借型保育所の再募集の結果及び藤沢型認定保育所制度の検討状況②学校教育ふじさわビジョンの改定③学校生活についてのアンケート調査の結果④平成二十四年度全国学力・学習状況調査の結果⑤NPO法人による図書館の運営—以上五件について報告を受けた。

〇学校生活についてのアンケート調査の結果について
《教育委員会の説明》
学校生活についてのアンケート調査は、各学校や学級における子どもの実態を把握し、指導に生かすとともに、今後のいじめ防止対策等の施策に反映すること



安心して学べる学校づくりを推進していく

を狙いとして、全ての児童生徒を対象に実施した。調査は平成二十四年九月三日から二十日にかけて、市立小中学校の全児童生徒を対象に実施し、小学生は二万二千五百八十九人、中学生は一万四百七十七人から回答を得た。

調査結果における特徴的な傾向については、まず、学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握に、「冷やかされたり、嫌なこと」から「冷やかされたり、嫌なこと」を言われた」という項目について、「はい」と回答した児童生徒の割合は、小学校一年生では、一七・八%、二年生以降増加し、四年生で三一・七%とピークに達し、高学年では減少し、中学校一年生で再び増加、その後減少するという結果となった。「持ち物を取られたり、隠されたりした」等の項目でも同様の傾向が見られる。

前問の行為によって「学校に来るのがつらくなる」とあるかという項目では、小学生でおよそ二二%、中学生でおよそ一八%が「はい」と回答した。友だちのことで悩んでいることや心配なこと、相談したいことがある児童生徒は、どの年齢層においても一〇%前後いるという結果

資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化

厚生環境

〇「資源品目別戸別収集」と「商品プラスチックの資源化」に関する検証について報告を受けた。

《市の説明》
資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化については、平成二十四年四月から市内全域で導入し

厚生環境常任委員会は、十二月七日に開催され、議案四件、陳情五件を審査した。その結果、議案は全て可決すべきもの、陳情は一件が趣旨不承、四件が趣旨不承と決定した。

となり、また、相談したいと思う人は、小中学生ともに、「家族、先生、友人」という回答が多いが、少数ながら、「相談したい人がいない」という回答もある。学校生活の中で嫌な思いをさせてしまったことについて、「冷やかし、からかい」は、学年が上がるにつれて増加傾向が見られるが、中学校一年生をピークに減少に転じている。

また、「嫌なことをされた」と比べて、「嫌がることをした」と回答している児童の割合が低学年ほど低く、自分の行動について自覚できていないものと考えられる。その一方で、「嫌

「周囲で起きている嫌がらせ行為を見たり聞いたりしている」と回答している児童生徒の割合が小学校六年生以降高くなっており、これは年齢が高いと周りで起きていることを認識したり、相手の気持ちを考えたりできる児童生徒がふえるためと思われる。

嫌がっている行為をされているのを見たり、聞いたときどきどうするかについては、全ての学校から「何かをしなければならぬ」と考えている児童生徒が多くいるという回答があるが、「自分がやられると、思うと助けられない」、「見えて見ぬふりをする」という児童生徒がいる現状もあら

資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化

厚生環境

〇「資源品目別戸別収集」と「商品プラスチックの資源化」に関する検証について報告を受けた。

《市の説明》
資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化については、平成二十四年四月から市内全域で導入し

資源品目別戸別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

このような結果から、小学校一年生において、道徳や学級活動を初めとして、さまざまな場面で、自分を大切にするとともに、ほかの人を大切にすることが必要であることを考えている。

これまでの教育委員会では、スクールカウンセラーの配置や学校問題解決支援員の派遣によるいじめの未然防止、教職経験者研修等による教職員の指導力、対応力の向上に努めてきたが、今回の調査結果から、学校生活の中でつらい思いをしている児童生徒が相当数いることがわかった。

教育委員会では、学校に対して調査結果を指導に生かして学べる学校づくりを推進していきたい。

環境づくりについては、資源品目別収集の拡大、可燃資源品目の拡大④資源品目ごみへの資源混入率の減少等、分別の促進が図られており、資源の出しやすい環境が整ったと考えている。

資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化

厚生環境

〇「資源品目別戸別収集」と「商品プラスチックの資源化」に関する検証について報告を受けた。

《市の説明》
資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化については、平成二十四年四月から市内全域で導入し

資源品目別戸別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

このように、資源品目別収集の拡大により、集積所まで運搬する負担の軽減を図る

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化

厚生環境

〇「資源品目別戸別収集」と「商品プラスチックの資源化」に関する検証について報告を受けた。

《市の説明》
資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化については、平成二十四年四月から市内全域で導入し

資源品目別戸別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。

資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化

厚生環境

〇「資源品目別戸別収集」と「商品プラスチックの資源化」に関する検証について報告を受けた。

《市の説明》
資源品目別戸別収集及び商品プラスチックの資源化については、平成二十四年四月から市内全域で導入し

資源品目別戸別収集は、瓶、缶、ペットボトル、廃食用油、本、雑誌を対象品目とし、市民負担の軽減と資源の出しやすい環境づくりを目的として実施している。また、商品プラスチックの資源化については、資源品目拡大の要望が数多くあったことから、大型ごみや不燃ごみとして有料で収集していたプラスチック製品を商品プラスチックとして資源品目に追加指定し、市民負担の軽減と、資源化の促進を図ってきた。



資源の戸別収集により、集積所まで運搬する負担の軽減を図る